

鉄道構造物等設計標準・同解説 基礎構造物・抗土圧構造物
 (S I 単位版, 平成 12 年 6 月 20 日発行)

正誤表

ページ, 行	誤	正
p.30, 上 12	地盤の有効圧力 $p(\text{N}/\text{mm}^2)$	地盤の有効圧力 $p(\text{kN}/\text{m}^2)$
p.85, 下 3	ただし, $0.5\text{kN}/\text{m}^2$ を最小値とする.	ただし, $50\text{kN}/\text{m}^2$ を最小値とする.
p.86, 上 11	②ボーリング孔内載荷水平試験	②ボーリング孔内水平載荷試験
p.87, 解説表 6.3-2	PS (または速度) 検層 1 ^{※3} ※3「7.8.5 表層地盤の設計固有周期」解説 2) に示す設計せん断波速度 v_{sd} を用いる場合に適用する.	PS (または速度) 検層 1 ^{※3} ※3「7.8.5 表層地盤の設計固有周期」解説 2) に示す設計せん断波速度 v_{sd} を用いる場合に適用する. <u>ただし, 地盤反力係数の算定には 0.25 を用いる.</u>
p.89, 上 5	E_0 : 地盤の変形係数(N/m^2)	E_0 : 地盤の変形係数(kN/m^2)
p.89, 上 6	地盤反力係数(N/m^3)	地盤反力係数(kN/m^3)
p.89, 上 16	E_0 : 地盤の変形係数(N/m^2)	E_0 : 地盤の変形係数(kN/m^2)
p.89, 上 17	最大主応力度差(N/m^2)	最大主応力度差(kN/m^2)
p.89, 上 18	最大主応力度(N/m^2)	最大主応力度(kN/m^2)
p.89, 上 19	最小主応力度(N/m^2)	最小主応力度(kN/m^2)
p.89, 下 11	E_0 : 地盤の変形係数(N/m^2)	E_0 : 地盤の変形係数(kN/m^2)
p.89, 下 10	q_u : 一軸圧縮強さ(N/m^2)	q_u : 一軸圧縮強さ(kN/m^2)
p.89, 下 3	E_0 : 地盤の変形係数(N/m^2)	E_0 : 地盤の変形係数(kN/m^2)
p.89, 下 2	E_b : ボーリング孔内の水平載荷試験から求まる変形係数(N/m^2)	E_b : ボーリング孔内の水平載荷試験から求まる変形係数(kN/m^2)
p.90, 上 5	E_0 : 地盤の変形係数(N/m^2)	E_0 : 地盤の変形係数(kN/m^2)
p.90, 上 6	G : 動的せん断弾性係数(N/m^2)	G : 動的せん断弾性係数(kN/m^2)
p.90, 下 15	また, 一軸圧縮強さ $20\text{kN}/\text{m}^2$ 以下の粘性土	また, 一軸圧縮強さ $25\text{kN}/\text{m}^2$ 以下の粘性土
p.204,	リバース杭 ・ 自然泥木を用いた場合	リバース杭 ・ 自然泥 <u>水</u> を用いた場合

表 10.1.3-2		
p.204, 表 10.1.3-2	リバース杭 ・ ベントナイト泥木を用いた場合	リバース杭 ・ ベントナイト泥水を用いた場合
p.204, 表 10.1.3-2	アースドリル杭 ・ ベントナイト泥木を用いた場合	アースドリル杭 ・ ベントナイト泥水を用いた場合
p.210 上 11	k_v : 杭先端の鉛直地盤反力係数 (kN/m^3)	k_v : 杭先端の設計鉛直地盤反力係数 (kN/m^3)
p.212 下 10	式 (10.1.7-6)	式 (10.1.7-7)
P216 の上から 18	「既製杭の中掘先端根固め工法 設計施工指針 (案)」1990.3	「既製杭の中掘先端根固め工法 設計施工指針 (案)」1987.9
p.226, 下 15	粘性土の場合 $r=q_u/2$ または $10N \leq 8(\text{kN/m}^2)$	粘性土の場合 $r=q_u/2$ または $10N \leq 80(\text{kN/m}^2)$
pp.228~232	式番号 (解説 10.1.7-7) (解説 10.1.7-8) (解説 10.1.7-9) (解説 10.1.7-10) (解説 10.1.7-11) (解説 10.1.7-12) (解説 10.1.7-13) (解説 10.1.7-14) (解説 10.1.7-15) (解説 10.1.7-16) (解説 10.1.7-17) (解説 10.1.7-18) (解説 10.1.7-19) (解説 10.1.7-20) (解説 10.1.7-21)	式番号 (解説 10.2.5-1) (解説 10.2.5-2) (解説 10.2.5-3) (解説 10.2.5-4) (解説 10.2.5-5) (解説 10.2.5-6) (解説 10.2.5-7) (解説 10.2.5-8) (解説 10.2.5-9) (解説 10.2.5-10) (解説 10.2.5-11) (解説 10.2.5-12) (解説 10.2.5-13) (解説 10.2.5-14) (解説 10.2.5-15)
p.230, 式 (解説 10.2.5-4)	$(l/D) \geq 5$ の範囲 $q_p = 3.2/D(l/D)q_u$ または $64/D(l/D)N$	$(l/D) \geq 5$ の範囲 $q_p = 3.2/Dq_u$ または $64/DN$
p.235 上 6	打ち込み杭 $q_p' = 4.5q_u$ または $100N$	打ち込み杭 $q_p' = 4.5q_u$ または $100N \leq 20000\text{kN/m}^2$

	場所打ち杭 $q_p'=3q_u$ または 600N	場所打ち杭 $q_p'=3q_u$ または $60N \leq 9000kN/m^2$
p.236, 下 5	$L''=L'2H\tan \alpha$	$L''=L'+2H\tan \alpha$
p.238, 上 8	式 (解説 10.3.2.2-10)	式 (解説 10.3.2-10)
p.255, 下 10	5) H形鋼杭	6) H形鋼杭
p.255, 下 8	6) 深礎杭	7) 深礎杭
p.269, 上 9	$k_h=f_{rk}(0.03\alpha E_0 B_h^{-3/4})$ (11.1.4-2)	$k_h=f_{rk}(3.2\alpha E_0 B_h^{-3/4})$ (11.1.4-2)
p.292, 上 1	Z_0 : 鋼管矢板 1本の断面係数(mm^3)で, この部分に,,	Z_0 : 鋼管矢板 1本の断面係数(m^3)で, この部分に,,
p301, 解説表 11.5.5-1	継ぎ手管充填モルタルの配合例 水 246kg	水 426kg
p.308, 下 5	$k_1=f_{rk}(0.5\alpha E_0 B_h^{-3/4})$ (解説 12.1.4-1)	$k_1=f_{rk}(1.7\alpha E_0 B_h^{-3/4})$ (解説 12.1.4-1)
p.317, 上 16	一般に $\phi/2$ としてよいが, 設計受働土圧力度の算定においては, $\delta \leq 25-\phi/2$ の制限を設ける.	一般に $\phi/2$ としてよいが, 設計受働土圧力度の算定においては, $\delta \leq 25-\phi/5$ の制限を設ける.
p.319, 解説図 12.2.3-2	L_0 (周面支持力の有効範囲)	L_0 および B_0 の短い方(周面支持力の有効範囲)
p.417, 解説表 10.1.3-2	曲げモーメントを算出する場合の鉛直土厚(EA-17)(kN/m^2)	曲げモーメントを算出する場合の鉛直土圧(EA-17)(kN/m^2)
p.441 付属表 3-6		削除
p.454, 付属図 6-4	<p>震度 0.10 $R_1=4080\text{ kN}$ $\delta_1=0.0114\text{ m}$ $\theta_1=8.77 \times 10^{-4}\text{ rad}$</p> <p>震度 0.30 $R_2=13160\text{ kN}$ $\delta_2=0.0851\text{ m}$ $\theta_2=6.00 \times 10^{-3}\text{ rad}$</p> <p>付属図 6-4 荷重～変位曲線</p>	<p>震度 0.10 $R_1=4080\text{ kN}$ $\delta_1=0.0114\text{ m}$ $\theta_1=8.77 \times 10^{-4}\text{ rad}$</p> <p>震度 0.319 $R_2=13160\text{ kN}$ $\delta_2=0.0851\text{ m}$ $\theta_2=6.00 \times 10^{-3}\text{ rad}$</p> <p>付属図 6-4 荷重～変位曲線</p>
p.456, 付属図 6-6 下	震度 0.1 $R_1=272$ 震度 0.33 $R_2=896$	震度 0.1 $R_1=2720kN$ 震度 0.33 $R_2=8960kN$

p.466, 上1	x' 方向 $h = \frac{K_h \cos^2 \theta}{\mu_H}$	x' 方向 $h \cdot \frac{K_h \cos^2 \theta}{\mu_H}$
p.466, 上2	y' 方向 $h = \frac{K_h \sin^2 \theta}{\mu_H}$	y' 方向 $h \cdot \frac{K_h \sin^2 \theta}{\mu_H}$
p.496, 解説表 16.3-2	R/t>50 のとき 235-7.8(R/t-40)	R/t>50 のとき 235-7.8(R/t- <u>50</u>)